

<p>1 学校教育目標</p> <p>「生き抜く力」を育む指導をとおして、生徒一人ひとりの優れた資質を伸ばし、経済社会の発展に寄与する有意な人材の育成を目指す。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>「思いを力に～あたりまえ+α～」をスローガンとして、以下の6つの重点目標の達成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 綺麗な学校づくりに学校全体で取り組み、地域に愛され、地域に信頼される。 ② 生徒の夢を育み、成長させ、夢の実現のためにベストを尽くす態度を養う。 ③ 授業や部活動などを通して、確かな学力と失敗を恐れずチャレンジする心を持った、心身ともに逞しい生徒を育成する。 ④ 規範意識や自尊感情を高め、自分と他人を愛する心を育む。 ⑤ 国際社会で活躍できる、広い視野を持った生徒を育成する。 ⑥ 校舎制による円滑な学校運営を実施する。
---	---

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

① 綺麗な学校づくりに学校全体で取り組み、地域に愛され、地域に信頼される。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	教育相談体制の充実	・クラスに馴染めない生徒や問題を抱えた生徒の支援を充実する。	・スクールカウンセラーと協力体制を取りながら、教員間の共通理解を図る。 ・担任会、ケース会議等で情報を共有し、支援体制を整える。	B	SC、SSWと情報交換をし、職員間で情報を共有しながら生徒への支援体制を整えてきた。時間的な都合で担任会や教員担当者会議などで情報の共有を図ることができ、一部の職員だけで生徒支援にまわることがもった。	朝礼や学年打ち合わせ、職員会議等で情報を共有できるようにする。
	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見・対応	・いじめの防止と早期発見に努め、いじめのない学校生活を目指す。	・いじめアンケートを学期1回実施し、情報の共有を図る。 ・教育相談を年2回実施し、積極的な生徒理解に努める。	B	3回アンケートの実施ができ、職員間で情報の共有を図ることができた。気になる案件は関係の職員で対応することができたが、内容が複雑化し解決に至るまでに時間がかかっている。また問題が表面化し大々たる前に、日頃より一層生徒の観察を十分に行い未然に防ぐ必要がある。	QOのデータを活用することで、クラスの特性を確認し職員間で情報を共有する。
	○ボランティア精神の育成	地域や社会での活動による豊かな人間性の育成	・ボランティア清掃活動を通して、地域社会の一員として美化活動に積極的に取り組み、個人の豊かな人となりと新たな「公共」による社会を目指す人間の育成	・1、2学期に実施されるボランティア清掃活動で地域や通学路や最寄り駅周辺の清掃活動を実施する。	B	1学期はボランティア清掃活動を学校外で、2学期は学校内の清掃活動を実施した。学校内の清掃活動は生徒たちが元氣よく率先して取り組んでくれたので、とても良い成果が出たと思う。	来年度は学校外は取りやめ、学校内の清掃活動を保健指導部のワックスかけと同日に実施する。

② 生徒の夢を育み、成長させ、夢の実現のためにベストを尽くす態度を養う。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	わかりやすい授業の実践	・わかる授業のための指導方法の改善や工夫に努め、実践する。	・少人数指導や習熟度別指導などを取り入れ、個別指導を充実させる。 ・6月と11月を「授業力向上月間」として、他の教員の授業を2回以上参観し、意見交換を行う。	B	・1年生は2クラスとなり、少人数指導しやすい環境でもあり、質問などが受けやすい個別指導を充実させることができた。2・3年についても少人数指導が可能なよう取り組んでいく。 ・6月は延べ30回ほど授業参観が行われたが、11月は10回程度と少なかった。	・これからクラス編に伴う職員減が見込まれるが、今後も可能な限り少人数指導ができるようしていきたい。 ・授業参観以外に、全体研修会または教科別の授業研究会などを企画していきたい。
		学習効果を高めるICTの活用	家庭学習で使えるデジタル教材を生徒に配布する。	生徒に配布してよいデジタル教材を、授業担当者から提供してもらい、学習ネットワークに置く。	C	問題集の解答PDFや、検定問題のExcelデータなどの提供はあったが、家庭学習で使えるデジタル教材の提供は一部の教科だけの提供にとどまった。	教員自身で作成した、著作権的な問題が無い自作教材の提供をお願いする。
	○進路指導	勤労観・職業観の育成と進路意識の向上	・フリーターをつくらない。 ・内定率100%	・業者の企画等も入れながら、学年に応じた内容を計画する。 ・学期ごとに進路希望調査を実施する。	A	・校内での進路ガイダンスや外部講師による講話、ものづくり体験講話、校外でのバドミントン部研修などを実施することで、進路資料室に足を運ぶ生徒が増え、進路意識の向上を図ることができた。 ・生徒の進路希望を踏まえながら、今年度も内定率100%を達成できた。	勤労観・職業観の育成につながる講話を増やす。
		キャリア教育の充実	・3年間を見通したキャリア教育を推進する。	・3年次授業において現場実習を取り入れることで、学習の深化を図り、将来のスペシャリストの基礎づくりを行う。 ・外部講師の講話により、専門分野の業界状況を把握させるとともに、社会で求められる人材を理解させ実践させる。	A	商業教育の中では、3年生の課題研究(現場実習)や、きしま学舎におけるイベント販売等の取り組みや、インターネットショップモジュールの運営において、ビジネスに必要なスキルや、勤労観、職業観などを身に付けることができた。学校行事においては、宿泊研修や、修学旅行、ひまわりプロジェクトなどの活動において、人間関係や自己理解などに関するスキルを高めることができた。外部講師の講話や研修などに関するスキルを高めることができた。外部講師の講話や研修などに関するスキルを高めることができた。外部講師の講話や研修などに関するスキルを高めることができた。	教科指導や、学校行事でできる取り組みと、地域の産業界や外部講師にできる取り組みを整理し、お互いが協力し、より効果的な取り組みができるよう検討していかなければならない。また、来年度から2年生から各学科においてコース制となるため、各コースに応じたキャリアプランニングの特徴を出せるよう計画を検討する必要がある。
学校運営	進路指導体制の充実	・進路実現に向けた支援を充実させる。	・進路面談、進路希望調査等から得た情報や模試、適性検査の結果を担任と共有し、生徒への指導・助言等の充実を図る。 ・企業訪問や作文指導、面接指導等に進路以外の先生方にも関わっていただくことで、本校生が身に付けていかなければならない力を実感して頂く。 ・「進路の手引き」を発行することで、本校生の進路状況や進路実現までの流れや手続き等の情報を提供する。 ・キャリア教育講演会等の情報を提供する。	B	・情報の提供後の活用状況や作文指導の在り方など、先生によって温度差があった。 ・3学年学年末を中心に進路以外の先生方にも企業訪問をしていただき、企業の方の思いを感じていただいた。	・情報等の活用が上手いように、PDCAサイクルの構築等を検討する必要がある。 ・各分掌や学年等で実施される講演や行事で、できるだけ4用紙1枚程度の感想文を書かせる時間を作っていたら、最後まで書く練習をさせてもらいたい。自分の考えをまとめて言ったり、書いたりできない状態で、志望動機や面接指導など3年担任や進路で指導するのは大変である。	

③ 授業や部活動などを通して、確かな学力と失敗を恐れずチャレンジする心を持った、心身ともに逞しい生徒を育成する。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	基礎学力の定着促進	・日々の学習習慣を身につけさせる。	・「朝の学びの時間」(10分間)で、中学校内容の学び直し教材からスタートし、授業内容ならびに進路対策につなげていく。	B	・「朝の学びの時間」では、当初、生徒・職員の戸惑いもあったが、年間を通して学習習慣の定着を図ることができた。 ・クラス間の温度差があった。	・学び直し教材を本年度から取り入れたが、学習環境や指導体制について職員の共通理解を図ってきたい。
		●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・疾病予防や健康の保持増進を理解し、自ら実践できる能力の育成に努めさせる。	・健康診断で健康状態を把握しながら予防・受診の指導を行う。 ・保健だよりの発行、保健講話を実施し健康に関する知識を習得させる。	B	・健康診断の結果は1学期、2学期の三者面談時に報告したが、依然として受診率が上がらなかった。歯科に特化した受診率を高める取り組みを行い、少しずつはあるが生徒の意識が高くなってきている。 ・保健便りの内容、保健講話の内容は生徒の実態に合わせて充実させてきたが、生徒の意識を高めることまでには至っていない。
	●心の教育	心の健康づくり	・心と体の健康維持のための助言・支援を行う。	・全校集会などで命の大切さや思いやり等をテーマに指導する。	B	・全校集会などで命の大切さや思いやり等をテーマに指導する。	講話の内容がマンネリ化しないように、講師選びや内容の選択に十分配慮し、講話を充実させる。
	○部活動の充実	部活動の活性化	部活動の活性化と強化を図り、心身ともに健全な生徒を育成する。	・部活動を通じて挨拶や礼儀作法、マナーを身につけさせ、充実した学校生活を送れるように指導にあたる。 ・新入生に対し部活動紹介を実施し、全員部活動入部を奨励する。	C	今年度は新入生の部活動加入が少なく、各都部員数が減少傾向にあった。	部活動紹介や体験入部について、生徒が興味関心を持ってよう実施すれば、両キャンパスの部活動加入率の向上に繋がると思う。

④ 規範意識や自尊感情を高め、自分と他人を愛する心を育む。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	思いやりの心の育成	・互いを尊重し、自他を大切に思いやりの心を育成する。	・挨拶の励行 ・日々の授業やSCによる演習等、コミュニケーション力を高める態度や姿勢を育てる。	B	挨拶の習慣化で褒められる機会が増えたものの、挨拶ができる生徒は一部にとどまり、積極的にできているとは言いがたい。SCの授業やSCを1年(9月)・2年(6月)に実施。実施に合わせ活動を通してコミュニケーションの取り方を学ぶ。依然としてコミュニケーションは上手な方ではない。	日々の授業でペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、コミュニケーションを取る場面や活動を組み込む。
		○生徒指導の充実	端正な服装・頭髪	・服装や頭髪を整える意味を理解させる。 ・新白石高校の制服の着心地等について考察する。	・月一回の服装頭髪指導を実施する。 ・学年との連携(学年主任との意見交換) ・再検査および継続指導の徹底。(個別指導) ・制服の着心地等についてのアンケート実施(3学期)	C	月一回の服装頭髪指導については、マンネリ化した部分があり、昨年度からの課題であった。年度当初に職員に意見を求めたが月の服装指導は継続していてもいかに意識が多かった。 今年度は、学年に再検査については任せたいこともあり、学年に負担をかけた。生徒指導中心のほう良かったのかもしれない。制服アンケートの回答から現在生徒が不満に思っていることや不便事項を確認することができた。
	○異文化交流	異文化への興味・関心	・異文化に対する興味・関心を持ち、姉妹校である青岩高校と交流の充実を図る。	・青岩高校(韓国)への訪問を継続し、実際に現地の高校生との交流を通して異文化を理解する	A	今年も意欲的な生徒の応募があり、1年生6名、2年生4名で青岩高校を訪問することができた。例年通りの熱烈歓迎を受け、本校の生徒たちも積極的に青岩高校の生徒と交流を図ることができた。	来年度も引き続き青岩高校への訪問を行う。より有意義な交流ができるように、実際の訪問の前にSkypeを利用した事前交流を行い、生徒のモチベーションを高める。

⑤ 国際社会で活躍できる、広い視野を持った生徒を育成する。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○グローバル人材の育成	海外との交流に向けた取組	・姉妹校への訪問に向けて、異文化を理解する	・事前に語学研修やテーマに沿った調べ学習などを実施する。	A	事前学習として、韓国についてのレポートの提出や2回の韓国語講座に意欲的に取り組むことができた。また、今回は初の試みとして韓国語での学校紹介に挑戦し、練習を重ねた発表ができた。	これまで同様、事前学習としてテーマに沿ったレポート作成や韓国語講座を行う。学校紹介も韓国語で行えるよう早めに練習に取り掛かる。
	○異文化交流	異文化への興味・関心	・異文化に対する興味・関心を持ち、姉妹校である青岩高校と交流の充実を図る。	・青岩高校(韓国)への訪問を継続し、実際に現地の高校生との交流を通して異文化を理解する	A	今年も意欲的な生徒の応募があり、1年生6名、2年生4名で青岩高校を訪問することができた。例年通りの熱烈歓迎を受け、本校の生徒たちも積極的に青岩高校の生徒と交流を図ることができた。	来年度も引き続き青岩高校への訪問を行う。より有意義な交流ができるように、実際の訪問の前にSkypeを利用した事前交流を行い、生徒のモチベーションを高める。

⑥ 校舎制による円滑な学校運営の実施

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●高校再編	授業の円滑な実施	・職員減と出張等による自習時間をなくす。	・出張予定を速やかに把握し、時間割の振替に反映させる。	A	・早めに時間割予定表を職員に提示することで、ほぼスムーズに振り返ることができた。	振替が必要な場合は、速やかに知らせるように徹底する。
		学校行事の円滑な実施	・両キャンパス合同の学校行事を円滑に実施する。	・合同行事の計画を早めに作成し、2週間前を目途に職員に周知する。 ・合同行事終了後、反省会等を開き、次年度に活かしていく。	A	・初めての合同行事で戸惑うこともあったが、ほぼスムーズに運営することができた。	・準備が遅くならないように、合同の係打ち合わせを早めに行う。
		部活動の円滑な実施	・部顧問が練習に行ける環境をつくる。(特に夏場) ・普通科キャンパスから商業科キャンパスへ来やすい環境をつくる。	・公務など多忙な仕事を抱えて部活動の指導ができない先生方の負担を軽減させるために、校務分掌や学年で仕事の分担をする。(熱中症対策) ・スクールバスの円滑な運行を目指し、事務部とも協議しながら、実績を踏まえ検証を行い、改善に活かす。	C	商業科キャンパスの方は充実した環境であったと思う。スクールバスを運行してみても、待ち時間や両キャンパスでの時間差などがある関係上、利用しにくい現状だと思ふ。実際、普通科キャンパスから商業科キャンパスに来る生徒は少ない。	スクールバスを小型化、運行時間帯も増加すれば生徒たちが利用しやすい環境を作れると思う。
学校運営	校務分掌等の円滑な実施運営	・これまで検討してきた学校管理規定や内規を踏まえ、学科の特色を生かした校務分掌運営を実施する。	・両キャンパス間の情報共有を図り、より円滑な分掌運営を図るために分掌ごとに検証を行い、必要な見直しを実施する。	B	合同行事は少なかつたものの、各分掌や担当で適宜協議し、次年度に向けて見直しを図ってもらったり、新たな企画を検討してもらった。	合同行事関係は企画部や教務部で連絡を取り合いながら進めてもらう。生徒指導や進路指導の在り方については、完成年度に向けた検討を行う。来年度は部活動についての協議が必要である。	
	校舎間移動の円滑な実施運営	・年間計画に沿った行事及び部活動等に係る校舎間移動を実施する。	・学校行事等3回及び授業日の部活動に係る生徒移動用のバスを運行について、定期的な実績を検証し、次年度の運用に活かす。	B	スクールバスの乗車人数を全日数調査し、利用状況を把握した。当初見込数より乗車数が少なかった。また月を経るに従って乗車数が減っていた。	利用状況にあわせてスクールバスを大型バスから中型又は小型に変更できるように契約方法を検討する必要がある。	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学道校舎	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の働き方に対する意識改革の推進	・長時間勤務の軽減を図り、業務の平準化を目指す。	・週休日の部活動公式戦については、可能な限り振替を実施する。 ・定時退勤日を設定し、実施の徹底を図る。 ・業務の偏りをチェックし、必要であれば年度途中でも見直しを行う。	B	・週休日の振替については先生方の協力により、長期休業中や考査期間中の午後などに実施できた。 ・週休日の定時退勤日については、全員が定時に帰ることができなかったが、帰れるときには早めに帰るという意識をもってもらうきっかけになった。	業務の偏りが生じて、時期によっては特定の職員が多めの仕事をかかえることがあったので、来年度は配慮が必要である。特に7月月の全校総会に向けて、すべての職員がなんらかの業務を割り当てられることから、職員が減る中ではあるが、バランズを割り当て調整する必要がある。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・校舎制による高校再編が始まる中、学校運営にも様々な変化があった1年間であった。今後、学校評価の結果をどのように活かしていくのか検討する必要がある。新しい事業も来年度から始まるということで、学校評価の結果を踏まえながら具体的な目標を検討する。
・進路指導に関することや保健指導に関することなどは、例年同様充実した取組を行うことができた。来年度も個々の生徒に対応して、じっくりと丁寧に指導を行う。